DENSO

7月度 例会 個人 山 行 報 告 書

報告者	松中	参 加 メンバー	CL:山田 明 SL:松中 真理子 長島 博美、立木 孝枝
報告日	8／9		

山 域	北アルプス	山行日	2006 年 7 月 28 日（金） 夜発 ～ 7 月 30 日（日）
山 名	槍ヶ岳		
山行目的	高山植物を楽しむ		

配布先

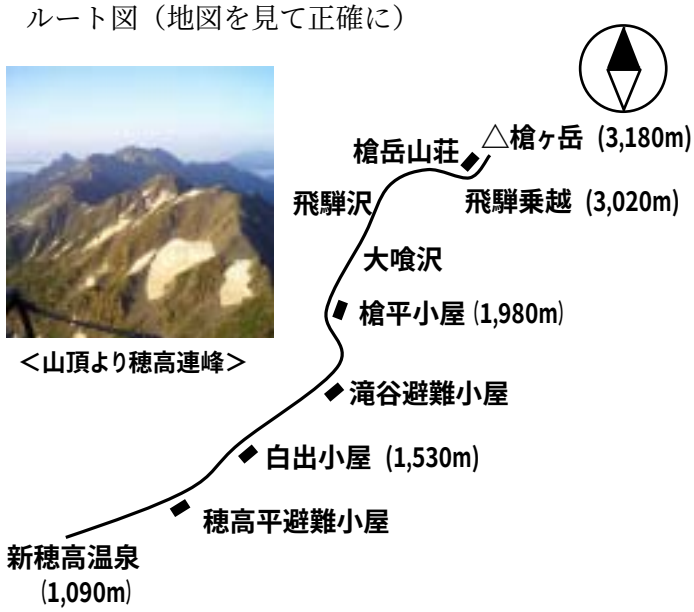
集会:12

山行: 1 ﾘｰﾀﾞｰ

原 紙：集会担当者

ルート図（地図を見て正確に）

＜山頂より穂高連峰＞



2.5 万分の 1 地図： 笠ヶ岳、穂高岳、槍ヶ岳

コースタイム（天候：天気図記号）

7/28(金) ～ 7/29 (土)
曇り時々雨
18:30 刈谷発
20:00 一宮着
24:00 新穂高温泉着
03:30 起床
05:15 新穂高温泉発
06:20 穂高平避難小屋
06:45 (休憩) 出発
07:40 白出小屋
07:50 (休憩) 出発
09:05 滝谷避難小屋
09:30 (休憩) 出発
10:30 槍平小屋着
11:00 (休憩) 出発
11:30 小休憩 (11:55 出発)
12:30 小休憩 (12:55 出発)
13:40 大休憩 (14:00 出発)
15:00 小休憩
16:00 槍岳山荘着
17:30 夕飯 21:00 就寝

7/30(日)
快晴のち曇り
02:30 起床
04:30 山荘発、山頂へ
05:00 槍ヶ岳山頂
05:30 下山、山荘へ
07:30 槍岳山荘発、下山
08:25 休憩
08:35 出発
09:45 大喰沢
10:00 (休憩) 出発
10:35 槍平小屋
11:05 (休憩) 出発
11:55 滝谷避難小屋
12:05 (休憩) 出発
13:15 白出小屋
13:30 (休憩)出発
15:15 新穂高温泉着
(休憩、温泉)
18:00 新穂高温泉発
23:00 刈谷着

〈山行報告〉今年は７月下旬になってもまだ梅雨が明けず。雨に降られる覚悟で、槍ヶ岳山頂を目指した。前日より奥飛騨温泉郷に入る。3:30 起床、雨はやんでいた。5:15 より、ロープウェイ乗り場横の林道から歩き始める。先週までの大雨のせいか、沢の水がものすごい勢いで流れており、途中、崖崩れしている所もあった。登山開始後、2 時間半ほどで林道も終わり、白出小屋からは登山道となった。岩がゴロゴロしており雨で濡れているため、少し慎重に滝谷避難小屋まで一気にかけ上がる。槍平小屋には 10:30 に到着した。ここからあと半分あるが４人ともまだ元気であった。槍平小屋を出てからは登山道が徐々に傾斜を増してきた。それまで降ったり止んだりの雨模様が、突然青空に変わる。途中、沢を渡ることも多く、先週の沢登りの経験が生かされた。槍平を出て 2 時間半、灌木帯を抜けると、広大な飛騨沢に出る。見上げると、頂上付近はガスで真っ白。どこに山頂があり山荘があるのかさっぱり分からない。ただただ空へと続くような急登をジグザグを切って登る。今まで元気だった 4 人にもだんだん会話がなくなる。足は既にへろへろ状態。それまで無視していた右ひざの痛みも体調不良もただの気のせいではないことに気づき、一気に足が重くなる。更に追い討ちをかけるように、雨、風、霧が激しくなり、トップを行く長島さんと立木さんの姿が霞んで見える。意識もうろうとしながらも、ただひたすら山荘を目指して歩き続ける・・辛い。1 時間後、ようやく 11 時間に渡った登りを終えた。

次の日は一転して快晴。昨日のひざの痛みも体調不良も一気に吹っ飛び、槍の穂先へと挑む。岩の隙間には可憐な高山植物。高度感が増す度に、わくわく感が止まらない。最後のはしごを上りきると、山頂からは 360 度大パノラマが広がっていた。南に穂高連峰、北に鹿島槍ヶ岳、西は笠ヶ岳・双六岳、東に八ヶ岳が見える。4 人大感激。そのまま穂高連峰へと足をのばしてみたくなるもリーダーの一言で、下山を余儀なくされる。ああ残念。

〈リーダー所見〉 今回の山行は、経験の浅い若手メンバーのみで構成されましたが、事故も無く、充実した登山を行うことが出来ました。自分達の力で槍ヶ岳を登ることが出来たので、メンバー４人とも自信が付いたと思います。しかし、決して自分の力を過信せず、今後も技術、経験を重ねながら、若手主体の山行をレベルアップしていきたいと思います。

祝☆槍ヶ岳初登頂

確認（ﾘｰﾀﾞｰ）
山田 06/08/09

作成（報告者）
松中 06/08/09